

# スポット ライト

## 期間限定開設の琴桜記念館説明員

### 安田菜海子さん

は。

「記念碑や銅像はあるのに、なぜ記念館はないの、という声が以前からあり、(記念館がある)赤瓦周辺の魅力アップを兼ねて、来年3月までの期間限定で開設することになりました」

— 記念館の評判は。

「相撲好きの方は本当に喜ばれますし、近所の方たちも『あー、あの琴桜、いい人だったよね』と思いついて話をされるなど、根強い人気を感じしま

す。特に現役時代を知っている年配の方は懐かしそつで、皆さんに待ち望まれていたんだな、と感

じます」  
— 何を展示しているのですか。  
「優勝額や現役当時の

パネル写真など約40点を展示しています。一番の目玉は、横綱になって最初に後援者から贈られた三つぞろいの化粧まわし。本人も一番気に入っていて、弟子が横綱になったら使ってもらおう、と相撲が好きで、相撲

と大切にしていたそうです」

素晴らしい人

— 説明員になろうと思われたのは。  
「中学生のころからずっと相撲が好きで、相撲

に関わる仕事ができたら、と思っていました。ハローワークで(求人票を)見つけて、すぐに申し込みました。半年間の限定、雇用延長の可能性はない、と書いてありましたが、(ここでやらなかったら一生後悔すると思

い、やって来ました)」  
— 琴桜のファンだったのですか。

「現在の展示は、力士としての現役時代を紹介したもの。1月からは、熱心な指導で多くの力士を育てた名伯楽、親方としての姿を紹介しよう」と計画されています。市民の方が保存されている写真やゆかりの品を集めた「市民のお宝展」、格す

もつの歩みをまとめた展示もやりたい。そして、多くの人の夢である第二の琴桜が生まれるような地域の盛り上げを、記念館を中心に行っていきたいです」

## 優勝額や化粧まわし展示

# 人間的魅力伝えたい



〈プロフィール〉 やすだ・なみこ 1984年生まれ。東京都調布市出身。早稲田大教育学部を卒業後、同大学院で源氏物語を研究。趣味は相撲。東京場所では、最低1日は国技館に出かけ、最後の取組が終わって土俵の片付けが始まるまで、じっと見ていたという。説明員になり、本場所をテレビ観戦できないのが悩み。倉吉市山根。

「現役時代は全然知らなくて、親方になられてテレビで解説されている姿を見る程度でしたが、弟子の取組になると夢中になって、アナウンサーが質問をしても、とんちんかんかな答えをしたり。優しく、おおらかで、面白い人という印象でした。でも、倉吉に来て、親方を知っている人たちの話を聞いて、想像していた以上に素晴らしい人だったことが分か

り、びっくりしました。そういう人間としての魅力も伝えていきたい」

第二の琴桜誕生を

— 記念館でやりたいことは。

「現在の展示は、力士としての現役時代を紹介したもの。1月からは、熱心な指導で多くの力士を育てた名伯楽、親方としての姿を紹介しよう」と計画されています。市民の方が保存されている写真やゆかりの品を集めた「市民のお宝展」、格すもつの歩みをまとめた展示もやりたい。そして、多くの人の夢である第二の琴桜が生まれるような地域の盛り上げを、記念館を中心に行っていきたいです」

— 半年間ではできない大きな目標ですね。  
「はい。そのためにも記念館の常設化が一番の願いです。皆さんに助けていただけて、何とか実現できたら、と思います」

(聞き手は本社・吉浦 郁夫)

第53代横綱琴桜を顕彰する琴桜記念館が倉吉市東岩倉町の市指定文化財倉吉湊屋内にオープンした。琴桜は強烈なぶちかましと鋭い突き押しで、「猛牛」の異名をとり、幕内優勝5回。現役引退後は佐渡ヶ嶽親方として多くの力士を育てた。同市で開催される格すもつにも、2007年に1人になるまで、部屋を力士を連れて参加。ふるさとの子どもの育成にも情熱を注いだ。記念館説明員の安田菜海子さんに記念館開設の狙いや琴桜の魅力を聞いた。

— 待ち望まれた施設  
— 記念館設立の経緯